

2 学 期	A 単元 デッサンの基礎練習 【知識及び技能】 鉛筆表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 立体表現に必要な、明暗表現に関する こと、遠近法に関することや、描画材 に関する基礎を学ぶ。明暗や遠近法の 基礎事項を理解し、対象の形態感を捉 えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆他	○	○	○	○	○	○	○	4
	A 単元 立体表現（粘土課題） 【知識及び技能】 粘土表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 人物を表現するのに必要な人体構造、 粘土の特性などを活かした表現を学 ぶ。 ・教材 教科書、粘土など	○	○	○	○	○	○	○	16
3 学 期	A 単元 デッサン（静物画課題） 【知識及び技能】 鉛筆表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 静物画表現に必要な、明暗表現に関す ること、遠近法に関することや、描画 材に関する基礎を学ぶ。明暗や遠近法 の基礎事項を理解し、対象の形態感を 捉えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆他	○	○	○	○	○	○	○	10
合計										
48										

2 学 期	A 単元 石膏課題（ラポルト） 【知識及び技能】 鉛筆・木炭表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 立体表現に必要な、明暗表現に関する こと、遠近法に関することや、描画材 に関する基礎を学ぶ。明暗や遠近法の 基礎事項を理解し、対象の形態感を捉 えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆・木炭他	○	○	知技：鉛筆表現の特性を生かすとともに色や質感な どの表現を工夫し創造的にあわしている 発鑑：自他の表現について客観的に言葉で伝えるこ とができる 態表：主体的に対象物を見つめ表現の創造活動に取り 組もうとしている	○	○	○	10
	A 単元 石膏課題（アグリッパ） 【知識及び技能】 鉛筆・木炭表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 立体表現に必要な、明暗表現に関する こと、遠近法に関することや、描画材 に関する基礎を学ぶ。明暗や遠近法の 基礎事項を理解し、対象の形態感を捉 えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆・木炭他	○	○	知技：鉛筆表現の特性を生かすとともに色や質感な どの表現を工夫し創造的にあわしている 発鑑：自他の表現について客観的に言葉で伝えるこ とができる 態表：主体的に対象物を見つめ表現の創造活動に取り 組もうとしている	○	○	○	10
3 学 期	A 単元 静物画課題 【知識及び技能】 鉛筆・木炭表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 立体表現に必要な、明暗表現に関する こと、遠近法に関することや、描画材 に関する基礎を学ぶ。明暗や遠近法の 基礎事項を理解し、対象の形態感を捉 えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆・木炭他	○	○	知技：鉛筆表現の特性を生かすとともに色や質感な どの表現を工夫し創造的にあわしている 発鑑：自他の表現について客観的に言葉で伝えるこ とができる 態表：主体的に対象物を見つめ表現の創造活動に取り 組もうとしている	○	○	○	10
									合計
									48

年間授業計画

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科

芸術 科目 構成

教科： 芸術

科目： 構成

単位数： 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 7 組 8 組

教科担当者：

使用教科書： （ 美術1（光村図書） デザインの色彩（日本色研事業株式会社） ）

教科 芸術 の目標：

- 【知識及び技能】 作品の歴史や文化を学び、画材や素材を適切に扱って制作を行う。
- 【思考力、判断力、表現力等】 作品のテーマや課題意識をもとに、画材の特性を生かして表現活動を行う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自分自身で企てた単元目標に向かって意欲的に制作し、自他の作品のよさを認め合う。

科目 構成 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
形や色、構図や素材など作品の要素が与える効果を理解し、適切な画材の扱いで制作を行う。作品の歴史や文化について学び、それを踏まえて制作に取り組む。	作品のテーマや課題意識をもとに、形や色、画材の性質を生かして効果的に表現することができる。実用性や装飾性といった、制作目的に沿った作品の特徴を表現する。	制作や鑑賞を通して自身の作品の課題を見つけ、意欲的に制作に取り組む。鑑賞を通して自他の作品のよさを認め合う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数
		絵・ 彫	デ	映						
1 学 期	（平面） 「平面構成」 【知識及び技能】 効果的な色や絵の具の使い方 で行う。 【思考力、判断力、表現力等】 自分のテーマに沿って表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 課題に対して真摯に取り組む、互いの作品のよさを認め合う。	・色のコントラスト ・同一調和と類似調和 ・水張り ・アクリル絵の具の使い方 ・講評会				・色相の効果的な構成方法を知り、絵の具の適切な水分量や塗り方で制作することができる。 ・色のコントラストや色相を効果的に使って表現することができる。 ・制作や鑑賞を通して互いの作品のよさを認め合うことができる。	○	○	○	12
	「ピクトグラム」 【知識及び技能】 効果的な色や形、線の使い方 で行う。 【思考力、判断力、表現力等】 自分のテーマに沿って表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 課題に対して真摯に取り組む、互いの作品のよさを認め合う。	・色の効果 ・ピクトグラムにおける形と色の決まり ・アクリル絵の具の使い方 ・講評会				・ピクトグラムの役割や、形・色の役割を理解し、活用することができる。 ・自身のテーマに合う形や色を考え、第三者に伝わるような作品を作ることができる。 ・制作や鑑賞を通して互いの作品のよさを認め合うことができる。	○	○	○	6
2 学 期	「明度立体」 【知識及び技能】 アクリル絵の具の特性や、色の明度について理解し、制作を行う。 【思考力、判断力、表現力等】 効果的に表現するための色を使い表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 課題に対して真摯に取り組む、互いの作品のよさを認め合う。	・アクリル絵の具の使い方 ・色の明度 ・講評会				・色相の効果的な構成方法を知り、絵の具の適切な水分量や塗り方で制作することができる。 ・色のコントラストや色相を効果的に使って表現することができる。 ・制作や鑑賞を通して互いの作品のよさを認め合うことができる。	○	○	○	6
	（立体） 「陶芸」 【知識及び技能】 焼き物や陶芸文化について学習し、技法や扱い方を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 実用品としての機能性と装飾性について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 陶芸や装飾文化に興味を持ち、意欲的に技能を身に付けていく。	・陶芸の基本技能を身に付ける ・美術1（光村図書） ・1人1台端末の活用	○	○	○	・形や装飾文様を独創的で豊かに発想し、土の性質を生かして構想を広げることができる。 ・構想に基づいて材料の性質や技法を生かし、土の可塑性を生かして造ることができる。 ・陶芸作品の制作や鑑賞を通して、よさや美しさに関心を持ち、構想をもとに生き生きと表現することができる。 ・自他の作品の魅力を感じ取り、伝え合うことができる。 ・自分自身で企てた単元目標に向かって意欲的に制作し、振り返ることができる。	○	○	○	16

<p>「紙の立体造形」 【知識及び技能】 紙の特性や良さについて学習し、構想に基づいた創造的な立体表現をするために必要な技能を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 紙の特性や造形表現の可能性について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 紙の特性や造形表現に興味を持ち、意欲的に技能を身に着けようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紙を用いて立体構成を制作し、形を表現する力を養う。 ・美術 1 (光村図書) ・1人1台端末の活用 			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・紙や用具の生かし方などを身に着け、意図に応じて工夫したり、制作の順序などを考えながら、見通しを持って表すことができる。 ・紙の特性に親しみながら構想をもとに生き生きと表現することができる。 ・創造活動の喜びを味わい、紙の特性や良さをもとに構想を練り、意図に応じて工夫し、見通しを持って表現の学習活動に取り組もうとすることができる。 	○	○	○	14
										合計
										54

2 学 期	A 単元 デッサンの基礎練習 【知識及び技能】 鉛筆表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 立体表現に必要な、明暗表現に関する こと、遠近法に関することや、描画材 に関する基礎を学ぶ。明暗や遠近法の 基礎事項を理解し、対象の形態感を捉 えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆他	○	○	○	○	○	○	○	4
	A 単元 立体表現（紙課題） 【知識及び技能】 紙の表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 紙の素材を活かした表現を学ぶ。 ・教材 教科書、粘土など	○	○	○	○	○	○	○	16
3 学 期	A 単元 デッサン（静物画課題） 【知識及び技能】 鉛筆表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 静物画表現に必要な、明暗表現に関す ること、遠近法に関することや、描画 材に関する基礎を学ぶ。明暗や遠近法 の基礎事項を理解し、対象の形態感を 捉えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆他	○	○	○	○	○	○	○	10
合計										
48										

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

芸術

科目 素描

教科： 芸術

科目： 素描

単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 7 組～ 8 組

教科担当者： 高野・菊田

(組：)

使用教科書： (美術 I (光村図書))

教科 芸術

の目標：

- 【知識及び技能】 技術、構図構成、素材に対する知識
- 【思考力、判断力、表現力等】 アイディア、コンセプト、プレゼン力、課題を読み解く力
- 【学びに向かう力、人間性等】 出席、提出、計画性、努力する力

科目 素描

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンに関する技術力を身につける ・構図、構成力を身につける。 ・素材に対する知識を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンする力を養う。 ・課題を読み解く力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席しない。 ・提出期限を守る。 ・計画性をもつ。 ・努力する力を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	記 時 数
		絵 ・ 彫	デ	映						
A 単元 石膏デッサン (木炭) 【知識及び技能】 鉛筆表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 立体表現に必要な、明暗表現に関する こと、描画材に関する基礎を学ぶ。明 暗の基礎事項を理解し、対象の形態感 を捉えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆他	○			○	知技：鉛筆表現の特性を生かすとともに色や質感な どの表現を工夫し創造的にあらわしている 発鑑：自他の表現について客観的に言葉で伝えるこ とができる 態表：主体的に対象物を見つめ表現の創造活動に取り 組もうとしている	○	○	○	6
A 単元 構成デッサン (B3サイズ、鉛筆) 立体表現の基礎練習 (静物画課題) 【知識及び技能】 鉛筆表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 立体表現に必要な、明暗表現に関する こと、遠近法に関することや、描画材 に関する基礎を学ぶ。明暗や遠近法の 基礎事項を理解し、対象の形態感を捉 えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆他	○			○	知技：鉛筆表現の特性を生かすとともに色や質感な どの表現を工夫し創造的にあらわしている 発鑑：自他の表現について客観的に言葉で伝えるこ とができる 態表：主体的に対象物を見つめ表現の創造活動に取り 組もうとしている	○	○	○	3

1
学
期

2 学 期	A 単元 静物デッサン（木炭・鉛筆、木炭私大） 【知識及び技能】 鉛筆・木炭表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 立体表現に必要な、明暗表現に関する こと、遠近法に関することや、描画材 に関する基礎を学ぶ。明暗や遠近法の 基礎事項を理解し、対象の形態感を捉 えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆・木炭他	○	○	○	○	○	○	○	6
	A 単元 構成デッサン 【知識及び技能】 鉛筆・木炭表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 立体表現に必要な、明暗表現に関する こと、遠近法に関することや、描画材 に関する基礎を学ぶ。明暗や遠近法の 基礎事項を理解し、対象の形態感を捉 えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆・木炭他	○	○	○	○	○	○	○	4
3 学 期	A 単元 静物画課題 【知識及び技能】 鉛筆・木炭表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 立体表現に必要な、明暗表現に関する こと、遠近法に関することや、描画材 に関する基礎を学ぶ。明暗や遠近法の 基礎事項を理解し、対象の形態感を捉 えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆・木炭他	○	○	○	○	○	○	○	5
合計										
24										

年間授業計画

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科

芸術 科目 構成

教科： 芸術

科目： 絵画

単位数： 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 7 組 8 組

教科担当者：

使用教科書： （ 美術2（光村図書） ）

教科 芸術 の目標：

- 【知識及び技能】 作品の歴史や文化を学び、画材や素材を適切に扱って制作を行う。
- 【思考力、判断力、表現力等】 作品のテーマや課題意識をもとに、画材の特性を生かして表現活動を行う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自分自身で企てた単元目標に向かって意欲的に制作し、自他の作品のよさを認め合う。

科目 構成 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
形や色、構図や素材など作品の要素が与える効果を理解し、適切な画材の扱いで制作を行う。作品の歴史や文化について学び、それを踏まえて制作に取り組む。	作品のテーマや課題意識をもとに、形や色、画材の性質を生かして効果的に表現することができる。実用性や装飾性といった、制作目的に沿った作品の特徴を表現する。	制作や鑑賞を通して自身の作品の課題を見つけ、意欲的に制作に取り組む。鑑賞を通して自他の作品のよさを認め合う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		絵 ・ 彫	デ 映							
「構図について学ぶ」 【知識及び技能】 構図の決め方やルールについての知識を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 モチーフやテーマと構図の関係性を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 課題に対して真摯に取り組む、互いの作品のよさを認め合う。	・ 絵画作品やポスターから構図を考える ・ 構図を決めてカラーージュを行う ・ モチーフをもとに構図を考える				・ 構図の決まりやルールを理解し、作品を読み解くことができる。 ・ 鑑賞を通して作品の構図の工夫について考えることができる。 ・ モチーフや作品のテーマ性をもとに、構図を工夫して作品を構成することができる。	○	○	○	10	
「古典技法を学ぶ」 【知識及び技能】 グリザイユやカマイユといった技法を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 細部をよく観察し、自分の顔を描く。 【学びに向かう力、人間性等】 課題に対して真摯に取り組む、互いの作品のよさを認め合う。	・ グリザイユ、カマイユの技法 ・ 細密描写 ・ 講評会				・ グリザイユやカマイユの技法を理解し、自身の制作で正しく技法を活用できている。 ・ モチーフをよく観察して特徴をつかみ、細密にいていねいに描写することができる。 ・ 作品を計画的に制作し、互いの作品を鑑賞してそのよさを認め合うことができる。	○	○	○	22	

2 学 期	A 単元 ①木彫 【知識及び技能】 木材の性質の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 木彫の制作工程を理解し、木の性質や計画的に掘り進める計画性や基礎事項を理解し、対象の形態感を捉えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、木材、ノミ、ノコギリ、彫刻刀	○	○	○	○	○	○	○	6
	A 単元 ②金属鑄造 【知識及び技能】 彫金の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 木彫の制作工程を理解し、木の性質や計画的に掘り進める計画性や基礎事項を理解し、対象の形態感を捉えた表現を学ぶ。 ・教材 教科書、画用紙、鉛筆・木炭他	○	○	○	○	○	○	○	4
3 学 期	A 単元 彫塑・着彩 「スーパーリアリズム」 【知識及び技能】 粘土の性質やリアルな表現を理解し、彫刻の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 ・木の枝、石、貝殻など、自分でモチーフを持ち寄り、大きさ、形、色、質感、すべて同じになるように彫刻を作る。 ・色彩の効果を生かした表現を試みる。 ・教材 教科書、粘土、絵の具	○	○	○	○	○	○	○	5
合計										
24										

2 学期	<p>A 単元 粘土を使った表現 【知識及び技能】 粘土表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う</p>	<p>・指導事項 2つの質感を備えた粘土の立体物をデザインし、表現する。 ・教材 教科書、ケント紙、鉛筆、アクリル絵の具他</p>	○	○	<p>知技：粘土表現を工夫し創造的にあらわしている 発鑑：自他の表現について客観的に言葉で伝えることができる 態表：主体的に対象物を見つめ表現の創造活動に取り組もうとしている</p>	○	○	○	20
3 学期	<p>A 単元 ガラス制作 【知識及び技能】 パートドヴェールを使った表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う</p>	<p>・指導事項 ガラスの特性を知り、塑像と型取りの技法を学ぶ。 ・教材 教科書、ケント紙、鉛筆、アクリル絵の具他</p>	○	○	<p>知技：粘土表現を工夫し創造的にあらわしている。 ガラスの技法について学ぶ。 発鑑：自他の表現について客観的に言葉で伝えることができる 態表：主体的に対象物を見つめ表現の創造活動に取り組もうとしている</p>	○	○	○	10
									合計
									48

2 学 期	A 単元 平面構成の応用練習（独自課題） 【知識及び技能】 アクリル絵の具表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 平面構成に必要な、色彩表現に関する こと、構図・構成に関することや、描 画材に関する基礎を学ぶ。色彩の基礎 事項を理解し、訴求力のある表現を学 ぶ。 ・教材 教科書、ケント紙、鉛筆、アクリル絵 の具他	○	○	○	○	○	○	○	10
	A 単元 平面構成の応用練習（ポスター） 【知識及び技能】 アクリル絵の具表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 平面構成に必要な、色彩表現に関する こと、構図・構成に関することや、描 画材に関する基礎を学ぶ。色彩の基礎 事項を理解し、訴求力ある表現を学 ぶ。 ・教材 教科書、ケント紙、鉛筆、アクリル絵 の具他	○	○	○	○	○	○	○	○
3 学 期	A 単元 平面構成の応用練習（入試課題） 【知識及び技能】 アクリル絵の具表現の知識・技術を養う 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを伝える力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって取り組む力を養う	・指導事項 平面構成に必要な、色彩表現に関する こと、構図・構成に関することや、描 画材に関する基礎を学ぶ。色彩の基礎 事項を理解し、訴求力ある表現を学 ぶ。 ・教材 教科書、ケント紙、鉛筆、アクリル絵 の具他	○	○	○	○	○	○	○	10
合計										
48										

令和5年度(2023年度) 教科年間指導計画表

教科	科目	単位数	学年
芸術	絵画(日本画・洋画)	5	3

担当教員

教科書	美術2(光村図書)
副教材ほか	参考作品 過去の生徒作品、古典作品の図版資料など

指導の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・制作に際して、構図や技法、また色彩などを工夫した、意図的でより高い表現が出来るように指導する。 ・卒業制作へ向けた自作のアイデアを水彩やデッサンなどで多数制作し、ねらいや構図を明確にする。
留意点	
評価の観点	上記「指導の目標」の観点において高度な達成度をもっているか。

学期	単元	主要項目	時数
一 学 期	制作Ⅰ 静物画(F15号)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のテーマを明確に理解すること。 ・構図、色彩などを技法を工夫した絵画表現をおこなう。 ・画材を効果的に用いて、意図的で創造的な表現の可能性を試みる。 	18
	制作Ⅱ 構成画(F15号)	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩効果や明暗対比を効果的に活用した、感覚的な表現を試みる ・人体の持つ有機的な形態美を理解する 	18
	制作Ⅲ 人物画(F15号)	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルから受ける情緒的なイメージを表現できるよう工夫する ・肌、髪、衣服など様々な質感を描く分ける ・モデルのいる空間、自身との距離などを表現できるよう工夫する 	18
二 学 期		<p>卒業制作のための習作制作 卒業制作として50号の作品を制作 卒業制作完成と展示</p> <p>目標としたレベルに達するよう、より完成度の高さを求めた制作を行う</p> <p>完成作品を卒業制作展へ展示し、客観的にまた相互に鑑賞する</p>	76

三 学 期		自画像制作 全体講評 片 づけ	造形美術コース最後の制作として、自分を振り返り見つめなおす。	10
-------------	--	-----------------------	--------------------------------	----

令和5年度(2023年度) 教科年間指導計画表

教科	科目	単位数	学年
芸術	彫刻	5	3

担当教員

教科書	美術2(光村図書)
副教材ほか	「彫刻を始める人へ」「彫刻を作る」「世界彫刻集」等

指導の目標 ・留意点	面のつながりが立体を作り、それは量を持つ。そして空間を支配する。彫刻の重要性、楽しさを理解してほしい。
評価の観点	主体的に取り組めたか。空間を扱えたか。

学期	単元	主要項目	時数
一学期	彫塑「首像を作る」	<ul style="list-style-type: none"> 人間の顔には、それぞれその人が持っている歴史が刻まれている。「首像」というモチーフには多面的な内容が含まれていることを理解する。 塊や面のつながりといった造形的なことから、人物表現、精神表現への意識が生まれることを目標とする。 人体の持つ有機的な形態美を理解する。 モデルから受ける情緒的なイメージを観察し、表現できるよう工夫する。 	45
	石膏取り	<ul style="list-style-type: none"> 粘土で制作した作品を石膏取りする。 石膏取りの技能を身につける。 	20
二学期	卒業制作のための習作制作 卒業制作「木彫」 卒業制作完成と展示	<ul style="list-style-type: none"> テーマを決め、三年間の学習成果を総合的に発揮する作品制作を行う。 ねらいを明確にした作品となるよう、表現を工夫し、より完成度の高い作品を目指す。 目標としたレベルに達するよう、より完成度の高さを求めた制作を行う。 卒業制作の前段階として、エスキース制作。 自分の作ろうとする形、意図を明確にする。 木材を使って卒業制作に取り組む。 チェーンソー、のみなど木彫道具の正しい使い方、扱い方を身につける。 自己を見つめ、世界の奥深さを感じながら、自己の造形表現を探索する。 完成作品を卒業制作展へ展示し、客観的に、また相互に鑑賞。 	100
三学期	卒業制作 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 卒業制作作品集の作成 	10

令和5年度(2023年度) 教科年間指導計画表

教科	科目	単位数	学年
芸術	ビジュアルデザイン	5	3

担当教員

教科書	美術2(光村図書)
副教材ほか	

指導の目標 ・留意点	ビジュアルデザインを深く理解し、卒業制作に生かしていく。
評価の観点	デザインを「見た目」と「機能」の両側面で理解することができたか。 作品の質の向上に努めることができたか。

学期	単元	主要項目	時数
一学期	画像ソフトの操作を学ぶ	●イラストレーター、フォトショップ 「オリジナル名刺」	30
	ポスター制作	●「好きな食べ物」「好きな場所」のポスター	30
二学期	卒業制作	●卒業制作 主題を設定してデザインの領域内で制作を行う。	70
三学期	鑑賞	デザイン等に係る映像鑑賞・研究	10

令和5年度(2023年度) 教科年間指導計画表

教科	科目	単位数	学年
芸術	クラフトデザイン	5	3

担当教員

教科書	美術2(光村図書)
副教材ほか	参考作品、卒業制作作品集、自主教材他

指導の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・制作を通してデザインの用途や目的を理解し、機能と形態、素材や技術についての理解を深める。1・2年生からの基礎・発展的な学習を踏まえ、応用的で実践的な制作が出来るように指導する。 ・留意点 ・卒業制作へ向けたスタディモデルを作成し、制作の目的や意図を明確にする。
評価の観点	上記「指導の目標」の観点において高度な達成度をもっているか。

学期	単元	主要項目	時数
一学期	・自己・他人分析	・自分の好きな作品データを収集し、みんなで分析する。それをもとに卒業制作に対する自分の方向性を探る。	30
	・制作	・卒業制作を使用する素材を使った作品を制作することで素材研究する。	30
二学期	・スタディモデルの制作	・テーマを決め、三年間の学習成果を総合的に発揮する作品制作を行う。 ・デザインの用途や目的を明確にし、機能と形態、素材や技術について工夫する。1・2年生からの基礎・発展的な学習を踏まえ、実践的な完成度の高い作品を目指す。	20
	・卒業制作		50
	卒業制作展	目標としたレベルに達するよう、より完成度の高さを求めた制作を行う 完成作品を卒業制作展へ展示し、客観的にまた相互に鑑賞する	8
三学期	まとめ	振り返り	2